

南山大学人類学博物館

年 報

2004 年度

南山大学人類学博物館

巻頭言

昨今の博物館をめぐる状況の中で、もっとも注目されるのは何と言っても指定管理者制度であろう。いくつかの博物館・美術館ではすでに導入が決定されており、多くの博物館・美術館でも導入が検討されている。そして、それに対する強い批判があることはいうまでもない。

ただ、指定管理者制度そのものがデメリットばかりではないだろう。博物館・美術館に競争意識をつくり、コスト感覚を強めていくことは方向性として避けられないことだからである。われわれは「国民」の立場で、小泉政権の構造改革を大筋で支持している。だとすれば、博物館・美術館のような文化施設といえども例外とはいえないであろう。

しかし、それを認めた上で、それでもなお博物館・美術館に対する指定管理者制度の導入には多くの疑問がある。多くの人が指摘していることだが、税金でつくられた施設を、私企業が利益をあげるために使用することの是非である。こうした点に関しては、例えば収益の何%かを自治体に還元するようなことも考えられるだろう。また、本来非効率的なものである文化施設や文化事業に対して、いたずらに効率化や競争原理を持ち込むのはどうか、という批判もある。

しかし、私が問題だと思うのは、文化という公共のものに対して、公を担うはずの行政がその責任を放棄するような事態についてである。博物館の重要な役割として、「文化」や「伝統」の継承があるとすれば、それこそは公の仕事であるべきだ。

あるいは「博物館法」との兼ね合いはどうなるのだろうか？いまや現実に対応していないともいわれる「博物館法」ではあるが、それでも今なお、博物館設置の根拠となっていることに変わりはない。誤解を恐れずにいえば、博物館に学芸員が置かれるのは正にこの「博物館法」のおかげなのである。

しかし、指定管理者となった私企業が、「博物館法」とは無関係に博物館の管理・運営をおこなうようなケースがないとはいえない。そのときに、博物館は、学芸員は、そして学芸員資格の行方はどうなってしまうのだろうか？

現在、指定管理者制度の導入を決めた、あるいは検討している自治体で、そこまで将来を見越して議論しているところはないのではあるまいか？

経済優先の見切り発車を急ぐあまり、こうした議論をなおざりにすべきではない。なぜならば、見切り発車の終着点は、文化的な伝統を失った、精神的に貧しい「日本人」の住む「日本」という国であることは明らかだからだ。

2005年7月
南山大学人類学博物館

目 次

巻頭言

2004 年度の人類学博物館の活動	人文学部 黒沢 浩	4
1. 教育・普及活動		6
(1) 展示活動		
(2) 見学対応		
(3) 「総合的な学習」の対応		
2. 調査・研究活動		11
(1) 調査出張		
(2) 研究者招聘		
3. 資料貸出・撮影・閲覧・他機関刊行物等への掲載		12
(1) 資料貸出		
(2) 撮影・他機関刊行物等への掲載		
4. 資料修復		12
5. 当館紹介刊行物等一覧		13
6. 刊行物一覧		13
(1) 2004 年度刊行物		
7. 受贈資料		13
8. 新着図書		14
(1) 購入図書		
(2) 寄贈図書一覧		
9. 団体・取材・資料調査のための来館者一覧		15
10. 開館日数・入館者数		16
(1) 開館日数・入館者数		
(2) 団体別入館者数内訳		
11. 日誌抄		18
12. 施設整備		24
13. 2004 年度予算報告		25
14. 組織		25

2004 年度の人類学博物館の活動

人文学部助教授 黒沢浩

2004 年度の人類学博物館には、転機となるような出来事がいくつか起こった。詳細は各報告に譲るとして、ここでは活動をまとめておきたい。

1. 重松和男助教授の退職

人類学博物館を主導してこられた重松和男人文学部人類文化学科助教授が、2004 年 3 月 31 日に定年退職された。まずは重松氏の博物館に対する、長年の功労に感謝したい。

重松氏は博物館活動、特に資料収集に関してご尽力された。現在人類学博物館収蔵資料の中で、中心を担っているのは考古資料でも、民族誌資料でもなく、昭和の家電製品を中心とした生活資料である。ここ数年、さまざまな博物館において昭和 30 年代を中心とした生活資料の展示が一つの方向性として定着した感があるが、当館がその先駆者的な存在となったのは重松氏の功績である。また、この他にも現在常設展に展示されている名古屋市高蔵遺跡出土資料の発掘調査や、上智大学の調査による西北タイ山地民族資料の受け入れをしたのも重松氏であり、まさに今日の人類学博物館の姿を創ったといえる。

今後、われわれにとっては重松氏の残された財産を継承し、発展させていくことが大きな仕事になる。

重松氏の退職にともなって、その後任として黒沢が人文学部人類文化学科に着任した。黒沢は明治大学考古学博物館に勤務し、2004 年 4 月 1 日に新たに開館した明治大学博物館の準備にもかかわってきた。おそらく、その経験を人類学博物館の運営に活かすようにということなのだと思う。微力ながら、可能な限り力を尽くしたい。

2. 博物館のあり方に係るプロジェクト・チーム

重松氏の努力にもかかわらず、これまで人類学博物館の活動は必ずしも博物館として十分なものではなかった。その理由は、人類学博物館が法的に認められた博物館相当施設でありながら、学内的には規程がなく、したがって学内の組織としてはきわめて不明瞭な存在であったことが挙げられる。

こうした事態を受けて、2004 年 4 月に将来構想担当副学長の主導のもとに「博物館のあり方に係るプロジェクト・チーム」(以下プロジェクト・チームとする)がつけられた。このプロジェクト・チームは大塚達朗人文学部教授を座長として、人類学博物館の組織作りと運営、およびその将来構想に関して副学長に答申することを目的としていた。

これも詳細は各報告に譲るが、8 回の検討を経て答申をまとめ、大学規程に博物館規程を設けることと専任職員の配置による組織の確立、また具体的な博物館の運営組織としての博物館運営委員会の設置が提言された。

この答申については、特に博物館規程について、将来構想委員会を経て大学評議会で審議され、年度のかかった 2005 年 5 月に評議会において決定された。

3. 博物館施設

収蔵室の不足はどこの博物館でも悩みのタネであろう。当館にとってもそれは大きな問題である。現在、博物館の収蔵施設は G 棟地下に 3 室あるが、すでに飽和状態である上に収蔵環境はきわめて悪い状態である。博物館では以前より収蔵室の増設を要求していたが、本年度になってようやく、現博物館事務室の西側（裏）に収蔵室（西収蔵室と呼ぶ）の増設が認められた。収蔵室の工事は 6 月から始まり、8 月に一応の完成をみたが、全面コンクリートの打ちっ放しであるため、いわゆる「枯らし」の期間を半年ほどとることにし、資料の搬入は 2005 年 2 月に行なった。

これ以外にも 2004 年度には博物館施設の大きな移動がいくつかあった。詳細は各報告にあるが、簡単にまとめると N 棟に収蔵されていた考古学の遺跡発掘調査報告書が J 棟地下に移転した。また、第 2 展示室の展示資料を第 4 展示室に移動し、西収蔵室に資料の搬入が可能になった後、それらを西収蔵室に搬入した。これで第 4 展示室が空いたため、ここを図書室にすることとし、J 棟地下から図書を移転することにした。

さらに、第 2 展示室南側の教室を改装して広くし、博物館講座等で使える「学習室」とし、第 2 展示室東側の部屋を視聴覚室とした。このように、収蔵室が増設されたことで諸施設を博物館内に集めることができただけでなく、新たな博物館活動の場ができた意義は大きい。

4. 博物館実習

これまで、人類学博物館の意義を説明するとき、当館が博物館相当施設であるということをも第一の理由としてきた。そして、博物館相当施設としての役割は博物館実習の場を提供することで担ってきた。この方針は今後も変わらない。従来、博物館実習は重松助教授が担当されてきたが、退職に伴って黒沢がそれを引き継いだ。

博物館実習では、実習生に展示の企画を作らせながら、その過程で資料の取り扱いや梱包などを実習することにした。当初は企画の完成によってその目的を果たそうとしたが、博物館の第 2 展示室が空いたことから、急遽、実際に展示を行なうことにしたのである。

実習生による展示は 11 月 4 日から 12 月 8 日までおこない、ポスター・チラシなどを使って宣伝をした。これは博物館としても初めての試みであり、教職員の反応もよかったように思う。しかし、準備期間と展示期間が短く、わずかな人にしか見てもらえなかった点が残念であった。

5. その他

その他では、2005 年 3 月 5 日に博物館シンポジウム『博物館の可能性』を開催したことをあげておきたい。これは正しくは博物館事業ではなく、大学院人間文化研究科の予算で行なったものである。ちなみにこのシンポジウムのポスターは博物館実習生の高見さやかさんによるものである。

人事については、安藤さおりが特別嘱託職員として着任し、臨時職員であった久慈大介の留学にともなって、木田歩が後任となっている。

1. 教育・普及活動

(1) 展示活動

第2展示室展示替え

実施日：2004年8月～2005年3月

これまで昭和の生活資料を展示してきた第4展示室を、発掘調査報告書を収蔵する資料室とすることになり、当館の展示の中でも特に人気の高いこれらの資料を、民俗・民族資料の小コレクションを展示していた第2展示室へと移動することとした。途中で博物館実習履修生による企画展示を同所で行ったため、一度展示を撤収し、最終的には3月に完成した。

博物館実習履修生による企画展示

実施日：2004年11月4日～12月8日

1) 11月4日～10日

『音具 民俗楽器の「継承」と「創造」』

『貨幣展 歴史と文化を追って』

『土器の美術館 縄文の美』



(音具)



(貨幣展)



(土器の美術館)

2) 11月11日～17日

『ヤオ族を中心とした衣服と生活の関わり』

『東洋東 明暗の狭間に』

『Dolls ちっちゃいけれど一丁前』



(ヤオ族)



(東洋東)



(Dolls)

3) 11月18日～24日

『布の誕生と布への想い』

『さあ～て、21世紀のサザエさんは?!』

『見タイ!知りタイ!感じタイ!～I Love Thailand～』



(布)



(21世紀のサザエさん)



(タイ)

4) 11月25日～12月1日

『米 噛めば噛むほどアジが出る』

『民族楽器の世界 東南アジア・オセアニア紀行』



(米)



(民族楽器)

5) 12月2日～8日

『演出された楽園 バリ島の光と影』

『夢見る家電 Welcom to New Technology』



(バリ)



(家電)

(2) 見学対応

南山高等学校女子部 3 年生 25 名 (引率者 2 名含)

実施日: 2004 年 6 月 19 日 (土)

総合学習の一環として、人類学に対する理解を深めることが目的で来館。展示資料の解説を行なった。

南山高等学校女子部 1 年生 40 名 (引率者 3 名含)

実施日: 2004 年 7 月 2 日 (金)

情報科の授業の一環として、情報通信機器の歴史を学ぶ。家電製品を中心に、展示解説を行なった。



平九会ウォーキングサークル 19 名

実施日: 2004 年 7 月 3 日 (土)

各展示室の展示解説を行なった。

表山学区音聞山子ども会 16 名、未就学児 2 名、保護者 5 名

実施日: 2004 年 7 月 21 日 (水)

子ども会行事の一環として来館。一通り展示解説を行なった後、お手玉やおはじき、竹で作った水鉄砲など昔の遊びを体験した。また、当館初の試みとして、博物館実習履修者 7 名にボランティアとして参加してもらった。



名古屋市高年大学歩いて知ろう会 40 名

実施日: 2004 年 9 月 16 日 (木)

各展示室の展示解説を行なった。

小牧北里中学校 3 名

実施日: 2004 年 10 月 21 日 (木)

各展示室の展示解説を行なった。



静岡県立磐田西高校 PTA17 名

実施日：2004 年 11 月 9 日（火）

当館の概要について説明をした。博物館実習の学生による企画展示期間であったため、展示を担当した学生が展示を解説。



名古屋大学博物館実習生 44 名

実施日：2004 年 11 月 29 日（月）

当館について簡単な概要説明をした。

くすのき学園 14 名（引率者 3 名含）

実施日：2005 年 1 月 14 日（金）

小学校 2 年生から 6 年生までの 14 名が来館。昭和の生活資料を中心に解説を行なった。

名古屋市立星ヶ丘小学校 5 年生 6 名（引率者 1 名含）

実施日：2005 年 1 月 25 日（火）

名古屋市内分散学習の一環として、昔の道具や生活について学ぶことを目的として来館。昭和の生活資料を中心に解説を行なった。

津親睦旅行会 38 名

実施日：2005 年 2 月 22 日（火）

各展示室の展示解説を行なった。

留学生別科 6 名

実施日：2005 年 3 月 2 日（水）

各展示室の展示解説を行なった。

(3)「総合的な学習」の対応

鈴鹿市立神戸中学校 2 年生 14 名 (引率者 1 名含)

実施日：2004 年 6 月 15 日 (火)

様々な職種について学ぶことを目的に来館。展示解説を行ないながら館内を案内し、質問に答えながら博物館の業務や学芸員という仕事についての話をした。

名古屋市立はとり中学校 1 年生 50 名 (引率者 1 名含)

実施日：2004 年 6 月 16 日 (水)

学校では学べないことを自分たちで調べるといって来館。土器や家電製品など、触れられる資料は実際に触れてもらいながら展示資料の解説を行なった。



成岩中学校 2 年生 7 名

実施日：2004 年 6 月 17 日 (木)

展示資料の解説を行なった。博物館実習の授業の日であったため、受講している学生が実習の一環として展示解説をした。

名古屋市立清水小学校 6 年生 22 名

実施日：2004 年 6 月 23 日 (水)

当館で作成したワークシートを用いながら展示解説を行なった後、実際に粘土に縄で縄文を作ってみる、という体験学習を行なった。



刈谷市立依佐美中学校 1 年生 7 名

実施日：2004 年 10 月 29 日 (金)

当館の概要について説明した後、展示解説を行なった。



江南市立宮田中学校 1 年生 6 名
実施日：2004 年 11 月 11 日（木）

人類の進化について学ぶことを目的に来館。
あらかじめ送付されていた質問に沿う形で、マ
リンガー・コレクションの旧石器資料を見たり
触ったりしながらレクチャーを行なった。



岩倉市立岩倉中学校 2 年生 4 名
実施日：2004 年 11 月 11 日（木）

タイとニューギニアの民族資料を中心に解説を行なったほか、フィールドワーク
についての話をした。

2. 調査・研究活動

(1) 調査出張

出張先名：東京ドームシティ プリズムホール「プロジェクト X」展、
松戸市立博物館、昭和のくらし博物館、NHK 放送博物館

出張者：後藤真里、安藤さおり

実施日：2004 年 8 月 5 日（木）～8 月 6 日（金）

目的：展示替えのための予備調査

出張先名：博物館等の害虫対策に関するセミナー

出張者：後藤真里

実施日：2004 年 12 月 14 日（火）

会場：名古屋国際会議場

(2) 研究者招聘

2004 年度は実施せず。

3. 資料貸出・撮影・閲覧・他機関刊行物等への掲載

(1) 資料貸出

下記の団体に対し、資料の貸出を行なった。

貸出先	資料名・点数	貸出し期間	目的
名古屋市見晴台考古資料館	マリナー・コレクション 旧石器資料、縄文時代資料 など計 27 件 94 点	2005 年 1 月 20 日～3 月 31 日	名古屋市見晴台考古資料館 25 周年記念特別展「森と生きた一万年 - モリゾーとキッコロの考古学」出展
上高津貝塚ふるさと歴史の広場	花輪台貝塚出土土偶 1 点	2005 年 3 月 1 日～5 月 18 日	第 10 回特別展「山野を駆ける土偶 - その移り変わりと祈りの道具」出展

(2) 撮影・他機関刊行物への掲載

機関名	資料名・点数	刊行物名	備考
テレビ朝日	堀之内貝塚関連写真 2 点	「食彩の王国」	テレビ番組
同成社	二子山古墳出土画文帯 神獸鏡 1 点	『同型鏡とワカタケル』	
学習研究社	二ツ木貝塚出土縄文土器 1 点	『小学社会歴史年表 ワーク』	
愛知県	大須二子山古墳出土資料	『愛知県史資料編 3 考古 3 古墳』	
春日井市教育委員会	東芝製攪拌式洗濯機他 3 点	『家電のあるくらしが はじまる』	展示解説リーフレット
元興寺文化財研究所	大須二子山古墳出土挂甲	「古代から中世の組紐 の特徴」	ポスター
可児市教育委員会	三角縁三神五獣鏡	『可児市史』第一巻通史 編 考古・文化財	
中部大学国際人間学 研究所	紙製 箱 (KM328)	『アリーナ』NO.2	木村直樹氏

4. 資料修復

該当資料なし。

5. 当館紹介刊行物等一覧

以下の刊行物等に当館が掲載された。

機関名	内容	刊行物等名
メイツ出版	概要、代表資料等紹介	『東海地区 美術館・博物館ガイド』
中日 BB 水曜通信	資料紹介、利用案内等	『NAT's』(フリーペーパー)
名鉄交通	資料紹介、利用案内等	『名タク Eye』

6. 刊行物一覧

(1) 2004 年度刊行物

『南山大学人類学博物館紀要』第 23 号

『南山大学人類学博物館年報 2003 年度』

7. 受贈資料

寄贈資料

資料名 カシオ製レジスター

寄贈者名 きむら書房 木村直樹氏

資料名 トロー(カンボジアの楽器)2点、ムックリ4点、CD27枚

寄贈者名 黒沢浩本学人文学部人類文化学科助教授

資料名 アンデスのスライド資料約2万点

寄贈者名 友枝啓泰前広島市立大学教授

資料名 地球儀、The Olympic Camera Works 製カメラ

寄贈者名 安藤さおり(南山大学人類学博物館特別囑託)

8. 新着図書

(1) 購入図書

2004年度は以下の図書を購入した。

書名	著編者名	出版社名
日本どんぐり大図鑑	徳永桂子	偕成社
世界の食文化 (5) タイ	山田均、石毛直道	農山漁村文化協会
世界の食文化 (9) トルコ	石毛直道、大塚滋	農山漁村文化協会
世界の食文化 12 アメリカ	本間千枝子ほか	農山漁村文化協会
まるごとわかる「モノ」のはじまり百科 1	山口昌男	日本図書センター
まるごとわかる「モノ」のはじまり百科 2	山口昌男	日本図書センター
まるごとわかる「モノ」のはじまり百科 3	山口昌男	日本図書センター
まるごとわかる「モノ」のはじまり百科 4	山口昌男	日本図書センター
まるごとわかる「モノ」のはじまり百科 5	山口昌男	日本図書センター
ミュージアムの思想	松宮秀治	白水社
現代美術館学	並木誠士ほか	昭和堂
博物館を考える	水藤真	山川出版社
骨の事典	鈴木隆雄ほか	朝倉書店
オーディオクラシックモデル	『MJ 無線と実験』編集部	誠文堂新光社
展示学事典	日本展示学会『展示学事典』 編集委員会	ぎょうせい
竹並遺跡	竹並遺跡調査会	寧楽社
藍のそば猪口 700 選	松岡 寿夫	小学館
ものと人の社会学	原田 隆司、寺岡 伸悟	世界思想社
いまに伝える農家のモノ・人の生活館	大館勝司、宮本八恵子	柏書房
世界の木工文化図鑑	ブライアン・センテンス	東洋書林
洋裁の時代	小泉和子	OM 出版
世界の食文化 (7) オーストラリア・ニュージーランド	小山修三	農山漁村文化協会
失われた昭和	佐野真一	平凡社
驚異の部屋	西野嘉章	平凡社
保存科学入門	京都造形芸術大学	飛鳥企画
日本考古学用語小辞典	斎藤忠	学生社
織りと染めの歴史 日本	河上繁樹、藤井健三	昭和堂
織りと染めの歴史 西洋	佐野敬彦	昭和堂
シリーズ遺跡を学ぶ 007 首畑貝塚	木崎康弘	新泉社
シリーズ歴史を学ぶ 008 首野山古墳	佐々木憲一	新泉社
シリーズ歴史を学ぶ 009 矢出川遺跡	堤隆	新泉社
シリーズ歴史を学ぶ 別冊 01 鷹山遺跡群	黒曜石体験ミュージアム	新泉社

世界の食文化(2)中国	周達生	農山漁村文化協会
世界の食文化(18)ドイツ	石毛直道、大塚滋	農山漁村文化協会
かまど	狩野敏次	法政大学出版局
図説東京流行通信	新田太郎ほか	河出書房新社

(2) 寄贈図書一覧

2004年度の受贈図書一覧は省略する。

9. 団体、取材・資料調査のための来館者一覧

以下の団体および個人が、資料調査等で来館された。

来館者名	資料名・点数	実施日
本学アジア学科 水野浩子氏	インドの布絵・紙絵	5月10日
北海道大学大学院 吉開将人助教授	銅鼓3点	11月1日
名古屋大学大学院 猪熊樹人氏	丸本家角釣針	11月12日
春日井市教育委員会 加藤朝子氏	家電製品3点	11月16日
名古屋市見晴台考古資料館 纈纈茂氏	第一展示室縄文時代関連資料	11月19日
上高津貝塚ふるさと歴史の 広場 関口満氏	花輪台貝塚出土土偶1点	11月28日
名古屋市博物館 瀬川貴文氏	大須二子山古墳、蓮池古墳、断夫山古墳、白山藪古墳出土資料	12月3日
琉球大学医学部 石田肇教授	頭蓋骨	12月24日
横須賀市史専門委員 矢島國雄・野内秀明氏、吉井貝塚整理担当 川本真由美氏	入海貝塚出土資料	12月24日
明治大学大学院 植木雅博氏	高蔵遺跡、清水遺跡出土資料	2月3日

10. 開館日数・入館者数

(1) 開館日数・入館者数（大学講義受講生、個人を除く）

総入館者数	学校団体数	学校団体人数	一般団体数	一般団体人数	開館日数
5,377	30	1,223	11	297	224

(2) 団体別入館者数内訳（学内授業以外）

大学見学

日付	団体名	人数	担当課室/対応者名
4月16日	私立麗澤瑞浪高校	100	入試課
4月20日	静岡県立袋井高校	40	入試課
4月28日	三重県立松阪高校	30	入試課
5月7日	愛知県立岩倉総合高校	40	入試課
5月14日	私立美濃加茂高校	75	入試課
5月18日	私立中京高校	70	入試課
5月28日	私立富田高校	25	入試課
6月2日	岐阜県立各務原西高校 PTA	90	入試課
6月9日	愛知県立津島北高校	40	入試課
6月10日	私立岐阜東高校 PTA	40	入試課
6月15日	長野県立赤穂高校	35	入試課
6月17日	半田市立成岩中学校	7	入試課
6月25日	岐阜県立羽島北高校 PTA	49	入試課
6月28日	リード予備校	2	入試課
7月2日	岐阜県立恵那高校 PTA	17	入試課
7月22日	明治学院大学	2	入試課
7月27日	浜松市立高校	140	入試課
7月27日	三重県立四日市西高校	20	入試課
7月31日	長野県立木曾高校	76	入試課
10月6日	香川県立観音第一寺高校教員	2	入試課
10月14日	愛知県立刈谷北高校 PTA	40	入試課
10月28日	愛知県立一宮南高校	25	入試課
10月29日	私立松徳女学院高校	2	入試課
11月9日	静岡県立磐田西高校 PTA	17	入試課
11月10日	私立南山高校女子部 PTA	44	入試課
11月11日	愛知県立日進西高校 PTA	8	入試課
11月12日	私立帝京大学可児高校	70	入試課

1月11日	入試課取材	5	入試課
3月14日	私立桜花学園高校	73	入試課
3月17日	愛知県立中村高校	55	入試課
3月31日	長野県立塩尻志学館高校	1	入試課

入試課以外

日付	団体名	人数	備考
6月15日	鈴鹿市立神戸中学校	14	総合学習
6月16日	名古屋市立はとり中学校	49	総合学習
6月19日	私立南山高校女子部	24	
6月23日	名古屋市立清水小学校	22	総合学習
7月2日	私立南山高校女子部	43	
7月3日	平九会ウォーキングサークル	19	
7月21日	表山学区音聞山子ども会	22	
9月16日	名古屋市高年大学歩いて知るう会	40	
10月21日	小牧市立北里中学校	3	
10月29日	刈谷市立依佐美中学校	7	総合学習
11月11日	江南市立宮田中学校	6	総合学習
11月11日	岩倉市立岩倉中学校	4	総合学習
11月12日	東郷町立東郷中学校	5	
11月29日	名古屋大学	44	
12月16日	尾西市立尾西第三中学校	4	
1月14日	くすのき学園	14	
1月25日	名古屋市立星ヶ丘小学校	6	
2月1日	名古屋市立志賀中学校	4	
2月15日	金沢大学	22	
2月22日	津親睦旅行会	37	
3月22日	金沢大学拡充整備促進協議会	3	

大学行事

日付	行事名	人数	備考
7月17日	オープンキャンパス	489	
10月2日	父母の集い	28	
10月11日	体験入学会	163	

11. 日誌抄

4月

- 1日 入学式
特別嘱託職員 安藤さおり着任
- 2日 新入生人類学博物館招待日（～9日）
- 12日 第1作業室模様替え（～13日）
- 15日 実務者会議
- 16日 私立麗澤瑞浪高校 100名見学（入試課） 耐震工事のための業者下見
- 20日 第2作業室整理、静岡県立袋井高校 40名見学（入試課）
- 23日 耐震工事のための業者下見
- 28日 「お祭り・イベント・展示会情報調査」回答送信
三重県立松阪高校 30名見学（入試課）

5月

- 7日 愛知県立岩倉総合高校 40名見学（入試課）
- 10日 本学アジア学科学生資料撮影（インド宗教画）
- 11日 平九会ウォーキングサークル下見見学
- 12日 平九会ウォーキングサークル解説承諾書送付
- 14日 メイツ出版へ当館紹介資料・写真等送付
私立美濃加茂高校 75名見学（入試課）
- 17日 第1回博物館のあり方に係るプロジェクトチーム会議
- 18日 私立中京高校 70名見学（入試課） 博物館前の草刈り
- 19日 実務者会議
- 20日 消火器点検（管財課）
- 21日 テレビ朝日映像に資料写真使用承諾書送付
- 25日 （学内）個人情報管理に関するアンケート提出
- 26日 廊下とロビーの展示資料撤収・移動
- 27日 私学助成平成15年度決算を総務課に提出
- 28日 私立富田高校 25名見学（入試課）
- 31日 第2回博物館のあり方に係るプロジェクトチーム会議

6月

- 1日 「展示・イベント情報調査」回答送信
- 2日 岐阜県立各務原西高校 PTA90名見学（入試課）
- 8日 展示室改装に係る個別事業計画について業者を交え打合せ
- 9日 愛知県立津島北高校 40名見学（入試課）
- 10日 名古屋高年大学歩いて知ろう会下見見学
私立岐阜東高校 PTA40名見学（入試課）
- 14日 第3回博物館のあり方に係るプロジェクトチーム会議
- 15日 鈴鹿市立神戸中学校 14名総合学習対応
長野県立赤穂高校 35名見学（入試課）

- 16日 名古屋市立はとり中学校 49名総合学習対応、第1・第2作業室模様替え
- 17日 半田市立成岩中学校総合学習対応（入試課担当）
- 19日 私立南山高校女子部 24名見学・解説
- 23日 名古屋市立清水小学校 22名総合学習対応
きむら書房木村直樹氏よりカシオ製レジスターの寄贈を受ける
- 25日 個別事業計画書提出（学内） 岐阜県立羽島北高校 PTA49名見学（入試課）
レブン出版当館紹介記事原稿送付
- 28日 リード予備校 2名見学（入試課）
- 29日 発掘調査報告書の開架開始、第1回経理実地調査（学内）
音聞山子ども会下見見学、レブン出版当館紹介記事原稿校正

7月

- 2日 私立南山高校女子部 43名見学・解説
岐阜県立恵那高校 PTA17名見学
- 3日 平九会ウォーキングサークル 19名見学・解説
- 5日 第4回博物館のあり方に係るプロジェクトチーム会議
- 14日 第2作業室模様替え
- 15日 第5回博物館のあり方に係るプロジェクトチーム会議
- 17日 オープンキャンパス（来館者 489名）・館内ガイドツアーを行う
- 21日 音聞山子ども会 22名見学・解説（学生ボランティア 7名参加）
愛知県史より大須二子山古墳出土資料の掲載許可願届く
- 22日 明治学院大学 2名見学（入試課）
- 26日 第6回博物館のあり方に係るプロジェクトチーム会議
- 27日 次年度情報機器購入申請について打合せ
浜松市立高校 140名・三重県立四日市西高校 20名見学（入試課）
- 28日 出張申請書提出
- 31日 長野県立木曽高校 76名見学（入試課）

8月

- 4日 地下倉庫の耐震工事打合せ、学生アルバイト雇用申請
「展示・イベント情報調査」回答送信
- 5日 事務室閉室（～22日）
調査出張：東京ドームシティ プリズムホール「プロジェクト X」展、
松戸市立博物館（後藤、安藤）
- 6日 調査出張：昭和のくらし博物館、NHK 放送博物館（後藤、安藤）
- 25日 臨時職員久慈大介退職
出張報告書提出

9月

- 2日 事務室エアコン修理
- 7日 次年度予算計上について打合せ、台風のため 15：15 にて閉館
- 8日 臨時職員後任者決定
- 10日 次年度事業計画打合せ

- 16日 名古屋市高年大学歩いて知ろう会 40名見学・解説
博物館のあり方に係るプロジェクトチーム会議答申案について打合せ
- 17日 第7回博物館のあり方に係るプロジェクトチーム会議
- 21日 図書遡及入力業務委託について図書館と打合せ
江南市立宮田中学校に総合学習の承諾書を送付
- 22日 博物館実習についての打合せ
- 27日 ホームページに掲載している写真の使用承諾書送付
- 28日 K&B パブリッシャーズより『名古屋ベストガイド』への掲載願の連絡
- 29日 文部科学省「大学設置に関する調査」回答、次年度情報機器購入申請
- 30日 次年度予算計上計画提出

10月

- 1日 臨時職員木田歩着任
- 2日 父母のつどいのため開館（来館者 28名）・館内ガイドツアー実施
- 6日 香川県立観音寺第一高校教員 2名見学（入試課）
- 12日 「展示・イベント情報調査」回答送信
- 11日 体験入学会のため開館（163名）
- 12日 京都大学大学院生秋山美佳氏来館（竹並古墳出土資料調査のため、～13日）
- 14日 愛知県立刈谷北高校 PTA40名見学（入試課）
- 15日 皇朝十二銭のキャプション差し替え
文部科学省「大学における教育内容等の改革状況調査」回答
- 18日 丹青研究所里見氏・中沢氏来館
- 19日 展示室改装業者来館・打合せ
- 20日 フリーペーパー『NAT's』取材、台風のため14時に閉館
- 21日 小牧市立北里中学校 3名見学・解説
「学びネットあいち」登録情報送付
- 22日 科学技術振興機構アンケート提出
小谷凱宣本学人文学部教授より『月刊みんぱく』寄贈
- 25日 第8回博物館のあり方に係るプロジェクトチーム会議
- 27日 2005年度学生生活案内校正
- 28日 第2回経理実地調査（学内）愛知県立一宮南高校 25名見学（入試課）
- 29日 刈谷市立依佐美中学校 7名総合学習対応
私立松徳女学院高校 2名見学（入試課）
名古屋市見晴台考古資料館村木氏へ資料調査承諾書を送付

11月

- 1日 北海道大学大学院吉開将人助教授来館
学園75年史委員来館
- 2日 博物館実習受講生による展示を行うため第2展示室の資料撤収
- 4日 博物館実習受講生による企画展示第一弾開始（～10日）

- 5日 名古屋大学博物館新美倫子助教授より第1展示室に展示している動物の骨の鑑定と展示について意見を伺う、展示室の壁面ケース工事
- 8日 館内改装工事の業者来館
- 9日 静岡県立磐田西高校 PTA17名来館・解説
- 10日 次年度臨時職員雇用時間申請書提出
- 11日 江南市立宮田中学校6名・岩倉市立岩倉中学校4名総合学習対応
博物館実習受講生による企画展示第二弾開始（～17日）
- 12日 名古屋大学大学院生猪熊樹人氏丸本家資料実測調査
私立帝京大学可児高校70名見学（入試課） 東郷町立東郷中学校5名見学
- 16日 春日井市教育委員会資料撮影のため来館
05年度予算目的構成申請書提出
- 17日 『名タク Eye』撮影
第1展示室展示ケースのガラス3枚交換（施設課）
- 18日 上高津貝塚ふるさと歴史の広場より資料の出陳について問合せ
加藤隆浩本学スペインラテンアメリカ学教授の仲介によりアンデスのスライド資料約2万点の受け入れ決定
博物館実習受講生による企画展示第三弾開始（～24日）
- 19日 名古屋市見晴台考古資料館瀬藤茂氏資料調査のため来館
- 24日 テレビ設置状況調査回答（総務課）『雑誌新聞総かたろぐ』へ回答送付
- 25日 博物館実習受講生による企画展示第四弾開始（～12月1日）
- 26日 黒沢浩本学人類文化学科助教授よりトロー2点寄贈
- 29日 名古屋大学学芸員課程履修者44名見学・解説
- 30日 上高津貝塚ふるさと歴史の広場関口満氏、資料調査のため来館（花輪台貝塚出土土偶）

12月

- 2日 博物館実習受講生による企画展示第五弾開始（～8日）
- 3日 名古屋市博物館瀬川氏資料調査のため来館
愛知県文化学事文化振興グループアンケート回答
次年度特別嘱託職員雇用申請書・勤務予定表提出
九州産業大学美術館「全国ユニバーシティ・ミュージアム調査」回答
- 8日 元興寺文化財研究所小村氏に大須二子山古墳出土挂甲の写真使用承諾書送付
- 13日 可児市教育委員会より三角縁神獣鏡の写真使用について問合せ
- 14日 「博物館等の害虫対策に関するセミナー」出席（後藤）
- 15日 次年度予算申請書提出
- 17日 土曜開館と博物館講座の開講が承認される
- 20日 シンポジウム『博物館の可能性』ポスター発送作業
アイヌ文化振興研究推進機構アンケート回答
- 24日 横須賀市史資料調査、琉球大学医学部石田肇教授来館
- 27日 丹青研究所里見氏、小林氏来館

1月

- 7日 当館職員安藤より、資料2点寄贈
- 11日 愛知県史より大須二子山古墳出土鏡の掲載許可願い届く、入試課取材
- 12日 名古屋市博物館にてシンポジウム『博物館の可能性』実行委員会
- 13日 丹青研究所中沢氏来館
- 14日 西収蔵庫水漏れ修理
くすのき学園14名見学・解説
- 18日 全国大学博物館学講座協議会へコンテンツ企画承認文書を送付
- 19日 名古屋市見晴台考古資料館への出陳承諾書作成
- 24日 春日井市教育委員会へ掲載承諾書送付
- 25日 星ヶ丘小学校6名見学

2月

- 1日 名古屋市立志賀中学校5名見学
- 3日 明治大学大学院生植木雅博氏資料調査のため来館（高蔵遺跡・清水遺跡出土資料）
- 7日 学生生活案内校正（入試課）
- 8日 紀要印刷業者と打合せ
- 9日 上高津貝塚ふるさと歴史の広場への資料出陳に係る起案提出
- 15日 図書廻り入力打合せ、金沢大学学生22名見学
シンポジウム『博物館の可能性』打合せ
- 16日 学生アルバイト雇用申請書提出
- 18日 シンポジウム『博物館の可能性』招待状送付
上高津貝塚ふるさと歴史の広場へ資料出陳承諾書送付
- 22日 館務実習予定者来館、打合せ
津親睦旅行会38名見学、解説
- 23日 黒沢浩本学人類文化学科助教授よりCD27枚寄贈
- 25日 トイレ修理
- 28日 発掘調査報告書移転作業

3月

- 1日 黒沢浩本学人類文化学科助教授よりムックリ4点寄贈
早川正一本学人類文化学科教授より『えとのす』第5号寄贈
上高津貝塚ふるさと歴史の広場へ花輪台貝塚出土土偶出陳
- 2日 館内改装業者打合せ
- 4日 紀要・年報印刷業者打合せ
- 5日 シンポジウム『博物館の可能性』開催
- 8日 次年度の活動について実務者会議
紀要図版データ入稿
- 9日 紀要の物品等調達協議申請書提出
- 14日 私立桜花学園高校73名見学（入試課）
- 15日 第3回経理実地調査（学内）

- 16日 紀要・年報校了
- 17日 地震対策のため倉庫の棚にサラシの布を巻く作業
愛知県立中村高校 55名見学・解説（入試課）
- 22日 館内改修工事始まる（～28日）
金沢大学拡充整備促進協議会 3名見学・解説
- 25日 紀要・年報納品
- 29日 紀要・年報発送
友枝啓泰広島市立大学国際学部教授よりアンデスのスライド資料2万点の寄贈
を受ける
名古屋市資料調査研究会より資料調査願届く
- 30日 トイレ修理
- 31日 長野県立塩尻志学館高校 1名見学（入試課）

12. 施設整備

廊下とロビーの展示撤収

実施日：2004年5月26日

収蔵庫新設工事

実施日：2004年6月10日～8月31日

学習室整備

実施日：2004年6月16日

耐震工事

実施日：2004年7月1日～10月15日

事務室エアコン修理

実施日：2004年9月2日

第1・第2展示室壁面展示ケース工事

実施日：2004年11月5日

第1展示室壁面ケースのガラス交換

実施日：2004年11月17日

西収蔵庫配管水漏れ修理

実施日：2005年1月14日

第4展示室と資料室の資料移動

実施日：2005年2月22日～

女子トイレ修理

実施日：2005年2月25日

男子トイレ・女子トイレ修理

実施日：2005年3月30日

15 . 2004 年度予算報告

削除

16 . 組織

職員

館長

坂井信三

特別嘱託職員

安藤さおり (4月1日着任)

後藤真里

臨時職員

久慈大介 (8月25日退職)

須山成彦

木田 歩 (10月1日着任)

平成 17 年 7 月 26 日 印刷

平成 17 年 7 月 29 日 発行

南山大学人類学博物館年報 2004 年度

編集・発行人 南山大学人類学博物館

466-8673 名古屋市昭和区山里町 18

052 (832) 3111 内線 445

印刷 有限会社 オノウエ企画印刷

470-0154 愛知郡東郷町白鳥 1 丁目 3-1

0561 (38) 5619

E-mail info@onoue.com